

専大社研 2016 年度春季実態調査（釜山－対馬－福岡） 行程概要ミニ・フォトエッセー

大矢根 淳（2016 年度事務局長／人間科学部・教授）

1. はじめに

2016 年度春季実態調査（2017.3.14～18）は、テーマ「福岡－釜山超広域経済圏視察調査：釜山－対馬－福岡の経済圏と悠久の歴史」として企画された。2016 年末の社研総会前後にアナウンスされた趣意書の内容は以下の通り。

2016 年度春季実態調査として、卒業式前 3 月 14 日（月）～18（金）の 4 泊 5 日で、「福岡－釜山超広域経済圏視察調査」として「釜山－対馬－福岡の経済圏と悠久の歴史」についての実態調査を企画しました。

今回の実態調査では、北部九州と韓半島の間に横たわる玄界灘を釜山から対馬へと（空路ではなく）海路移動しつつ、その広域な経済圏、両国都市間交流の実態、その歴史文化的背景を体得します。海は地域と地域を分断するのではなく、新しい技術や文化を伝え合う道でした。

今年度・夏季実態調査ではインドシナ三国（タイラオスーベトナム）を国際道路網・陸路横断しましたが、今回・春季実態調査では、日韓両国を海路縦断します。釜山から海路、対馬に渡り、対馬から韓国を凝視し、両国歴史的交流の架け橋となっている対馬を北から南まで、陸路縦断し、国際関係・歴史文化の要所をたずねます。対馬から再び海路、福岡に渡ります。

所長 村上 俊介

事前学習会が、2 月 23 日（木）午後、生田社研会議室で開催されて、魏聖銓客員研究員に、「朝鮮通信使に見られる日朝の歴史―朝鮮通信使の足跡を辿る旅：釜山と対馬を中心に―」と題してご報告いただいた（写真 1）。2015 年度グループ研究助成 B「日韓コミュニケーション研究の第一歩としての朝鮮通信使の経路を巡る」（梶原勝美（責）・小林守・魏聖銓の 3 名）の成果報告会が 2015 年 12 月 5 日に定例研究会（テーマ：「朝鮮通信使の足跡を辿る」）として開催され、研究会参加者の間でこのテーマをもとにした実態調査の企画が考えられ始めた。その過程で、魏聖銓客員研究員には多くの情報提供をいただき、この度の実態調査企画につながった。

以下、今回の実態調査の行程をミニ・フォトエッセーとして記しておくこととする。



写真 1 事前学習

2. 実態調査の行程

2-1. 第一日目（3月14日）：成田から空路、釜山へ

成田空港に午前中、今回の実態調査参加者 20 名は集合して、12:45 発の釜山行き大韓航空 KE16 便に搭乗し、夕方、釜山着。現地搭乗員の出迎えて、チャーターバスで東横イン釜山 1 号店（釜山駅前）にチェックイン。

各自入室して一息ついたところで、社研実態調査恒例の結団式が地元魚市場そばの海鮮居酒屋（写真 2）で行われた。結団式（夕食）後は、これも恒例となっている参与を囲む会が開かれ、参与には大変お疲れのところ、無理をお願いして、社研の来し方・行く末について貴重なお話しの数々をうかがう機会をいただいた（写真 3）。社研事務局で構想が進んでいる『社研 70 年史』刊行についてご協力をお願いした。



写真 2 結団式会場（海鮮居酒屋外観）



写真 3 参与のお話しに耳をかたむける

2-2. 第二日目（3月15日）：釜山各地の視察・訪問

午前中はまず、チャーターバスにて昌原市商工会議所を訪ね、同会議所の活動、昌原の対日貿易の現状についてうかがい、質疑応答



写真 4 昌原市商工会議所：レクチャー風景



写真 5 昌原市商工会議所：集合写真

した(写真4,5)。社研サイドから姜徳洙客員研究員が総合進行・通訳として登壇。Koo Kyong-Ryul氏からお話いただいた。

昼食を挟んで、古代遺跡・鳳凰台の見学。土生田所員に遺跡をご案内いただいた(写真6)。土生田所員のお声かけに応じて、現地、ウーリ文化財研究院から院長と調査研究部員が、説明に駆けつけてくれた(写真7：二列目右端が調査研究部員・沈氏、右から三人目が院長・郭氏)。

釜山市内を移動するバス車中からは、急激に開発が進み高層マンションが林立する市街地外縁の様子が眺められた(写真8)。

鳳凰台遺跡の見学後、当初の行程を変更して、朝鮮通信使歴史博物館を訪れた(写真9)。企画立案時にはJTBと行程を練ったところではあったが、現地のバス運転手がリアルタイムの交通情報等を入手してくれたことで、その情報をもとに、現地地理に明るい魏聖銓客員研究員、姜徳洙客員研究員が次訪問先と綿密に連絡を取り、移動時間・ルートの適正化をはかってくれた。同博物館では3D映画を見ながら(写真10)朝鮮通信使の解説を受けた。

博物館を後にして、プキョン大学に向かった(写真11)。ここではまず、FABLAB釜山を訪ねた。FABLABはデジタルやアナログの工作ツール(最近では3Dプリンターなど)



写真6 古代遺跡・鳳凰台



写真7 古代遺跡・鳳凰台：集合写真

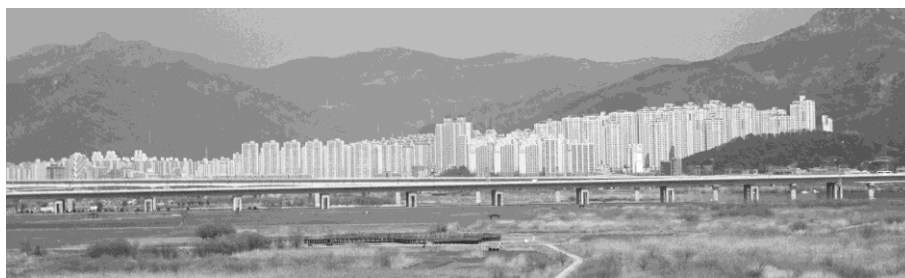


写真8 釜山市街地外縁に林立するマンション群



写真9 朝鮮通信使博物館



写真10 3D映像視聴@朝鮮通信使博物館



写真11 プギョン大学：集合写真



写真12 FABLAB 釜山



写真13 プギョン大学人的資源研究院：
レクチャー風景

を備えた個人起業家向けの工房で、日本でも東京、横浜、大阪、仙台の他、鎌倉、つくば、太宰府などで展開をみている。ここ釜山で一行は、3Dプリンター製ドローンなどを見せていただいた(写真12)。そしてプギョン大学・人的資源研究院に移動して、Kim, Kyung-Won氏のレクチャーを受けた。進行・通訳は姜徳洙客員研究員(写真13：左・Kim氏、右・姜氏)。

釜山最後の夜は、各自自由行動とし、ホテル周辺でお土産購入など。

2-3. 第三日目 (3月16日) : 釜山から対馬へ

釜山を発つ第三日目は、朝早くにホテルを発ち、一カ所・福泉洞古墳群をたずね、土生田所員に詳しくご案内いただいた (写真 14)。

その後、10 時過ぎには港に着き、12:45 釜山港を JR 九州ジェットフェリー BEETLE 号 648 便で離岸 (写真 15)、対馬・比田勝港に着岸。対馬はこれまで何度も訪れている魏聖銓客員研究員のアレンジのおかげで、地元観光協会が我々社研一行を出迎えてくれた (写真 16 : 右・魏氏)。朝鮮通信使に関する魏聖銓客員研究員の本号所収の論考を参照いただきたい。

一行は港からバスで、まずは、釜山が望めるという韓国展望所 (写真 17) に向かったが、あいにくこの日は霧がかかっていて眺望不可。これから春にかけては、さらに黄砂と PM2.5 の影響があつて、なかなか眺望が叶うことは少ないとのこと。日が暮れるとうっすらと対岸の明かりを望めるそうだ。

バスで対馬の県道 39 号線を南下して、対馬市街地・厳原に向かう。途中、朝鮮通信使を称える円通寺 (写真 18) をめぐり、合わせてその辺りでは名物となっている丸い鯛焼きを調達して (写真 19、20) 車中ほおぼった。円通寺は、府中 (厳原) に屋形を移すまで 60 年間、対馬統治の府であったところ。

次いで、国道 382 号線に入り南下して和多都美神社を訪ねた (写真 21)。ここは満潮時には神殿近くまで海水が満ちることから (写真 22) 竜宮が連想されて、海神にまつわる伝承がある。



写真 14 福泉洞古墳群



写真 15 BEETLE 号 (JR 九州ジェットフェリー)



写真 16 対馬観光協会



写真 17 韓国展望所



写真 18 円通寺



写真 19 永留菓子店の鯛焼き①



写真 20 永留菓子店の鯛焼き②



写真 21 和多津美神社①



写真 22 和多津美神社②海中に続く鳥居

バスで県道・国道を南下して要所要所で下車・視察するが、どこもかしこも観光客から聞こえて来るのは、はほとんど韓国語。

道中、集落を過ぎて次の集落に至る、崖縁のそこかしこに、木製の小さな塔を目にした（写真 23）。海辺の集落に置かれる海難供養塔かと思って眺めていたが、後にこれは対馬蜂蜜の巣箱であると教えられた。対馬は日本蜜蜂 100%の国産天然はちみつが採れることで有名で、この供養塔のように見えたものは、丸太をくりぬいた蜂の巣「蜂洞^{はちどう}」であった。また、これも道中、至る所で目にした高床式倉庫（写真 24）。対馬ではこれに大きな板状の石で屋根を葺くのが伝統であるという。



写真 23 日本蜜蜂の巣箱「蜂洞」



写真 24 高床式倉庫

バスはさらに南下して万関橋を渡った（写真 25）。日本海軍が明治 33 年、艦船の通り道として人工的に掘削した瀬戸にかかる橋で、これによって対馬は南北二つに、上島・下島とに分断されている。

丸一日の対馬南下バスの旅を終えて、市街地・厳原のホテル着。最近、韓国からの団体旅行客を見込んで、大規模ホテル、家電量販店が建っている。社研一行は、ローカルの和式ホテルに宿泊し、夕食は地元の名物、石焼料理をいただいた。黒い大きな石英斑岩の上で、魚介類を豪快に焼く（写真 26）。



写真 25 万関橋



写真 26 石焼料理

2-4. 第四日目 (3月17日) : 対馬から福岡へ

朝早くホテルを発ち、福岡へ渡る船の時間までの間、^{かなたのき}金田城跡を散策。新羅の日本侵攻を防ぐために築かれた対馬国金田城跡で、バスを降りて往復1時間強のミニ登山。防備兵の詰め所・見張り場としての掘立柱建物跡まで来て小休止。ここで土生田所員から解説を受けたのち(写真 27)、さらに少し先に進んで金田城跡に立つ(写真 28)。

正午、厳原を九州郵船ジェットフォイル・ヴィーナス2号で離岸して福岡に向かう(写真 29)。福岡に上陸して、ホテルにチェックイン。夕方5時より、現地研究会の開催。

2016年度春季実態調査現地研究会は、九州経済調査協会の調査研究部研究主査の島田龍



写真 27 金田城：掘立柱建物跡



写真 28 金田城：国指定特別史跡



写真 29 ヴィーナス2 (九州郵船・ジェットフォイル)

氏にご講演いただいた（写真 30）。貴重な講演に質疑が続出し、実態調査の締め括りとして一同大満足。さらに、同協会発行の『九州経済白書』のバックナンバーの購入についても島田氏に特別に便宜をはかっていただき、これが社研蔵書に加わることとなった。島田氏の講演内容については、月報今号にご投稿いただいた論考をご参照いただきたい。



写真 30 春季実態調査現地研究会

現地研究会終了後は、恒例となった解団式（を兼ねた夕食・懇親会）。解団の挨拶は村上所長（写真 31）。これで 2016 年度春季実態調査の公式スケジュールは終了。明朝、各自ホテルチェックアウトして解散となる。



写真 31 解団式

2-5. 第五日目（3月18日）：現地解散、 一部有志の太宰府視察

早朝、ホテル・チェックアウト手続きをもって、一行は現地解散。

午前中一杯、土生田所員の案内で（写真 32）、オプションツアーとして太宰府視察が企画された。西鉄太宰府駅から徒歩で参道を通して太宰府・宝物殿をめぐり、圧巻の九州国立博物館を見学（写真 33）。

昼過ぎ、オプションツアーを終えて、一同銘々、帰路についた。



写真 32 太宰府視察



写真 33 九州国立博物館

おわりに

この度の実態調査は、釜山から対馬に渡り福岡へと、海路を巡った。直前の夏季実態調査（2016.9.11～18）がタイーラオスーベトナムを陸路横断（『月報』No.642+643 合併号参照）したから、今年度の両実態調査は普段ではなかなか体験できない特殊な行程が組まれていたことが特徴的であったと言えよう。

今実態調査では、朝鮮通信使の研究で同経路を何度も実踏している魏聖銓客員研究員、そして釜山現地の訪問箇所調整と現地研究会の進行・通訳を担ってくれた姜徳洙客員研究員の多大なご協力によるところが大きい。また、前々回の春季実態調査（2015.3.14～17@関西）で各地の古墳をご紹介いただいた土生田所員に、今回は、釜山・対馬・福岡の古代史跡を詳しくご案内いただいた。この場を借りて社研事務局より感謝の気持ちをあらわしておきたい。